

住民の“声”から 生まれた志摩オレンジカフェ

三重県志摩市介護総合相談支援課
国民健康保険 志摩市民病院所属
池田幸子



志摩市の概要 (2018年12月31日現在)

- 人口：50,222人
- 65歳以上人口：19,311人
- 高齢化率：38.5%
- 日常生活圏域数：5
- 地域包括支援センター数：1
- 認知症地域支援推進員：1人
- 面積：178,95km²



しまこさん



志摩市の特徴

市全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、英虞湾、的矢湾といったリアス式の海岸が特徴的で湾内をはじめ、大小の島々も点在する自然豊かな地域。主要産業は宿泊業・保険・福祉・介護事業、娯楽業

志摩市認知症施策の概要



認知症対策検討会議

周知 (見守り体制強化)

ケーブルテレビ
広報誌の活用

自治会、老人クラブ、民生
委員、介護・医療サービス
事業所等、市内関係機関・
団体への周知

介護予防教室

認知症研修会

認知症サポーター養成講座
(キッズサポーター養成)
(出前講座) (市職員研修)

予防

早期発見

医療・介護・生活支援

もの忘れ相談

- ・総合相談にて来所・電話・訪問で随時対応
- ・疾患医療センターによる巡回相談
(1回/3か月)

もの忘れ予防教室

- ・年10回、各町巡回(地区単位)で開催
- ・出前講座と連携し開催

頭いきいき教室

- ・年5回、町単位
- ・1クール10回

頭いきいき教室同窓会

認知症初期集中支援推進事業

医療・介護専門職+サポート医による支援

医療サービス

介護サービス

生活支援
サービス
(体制構築準備)

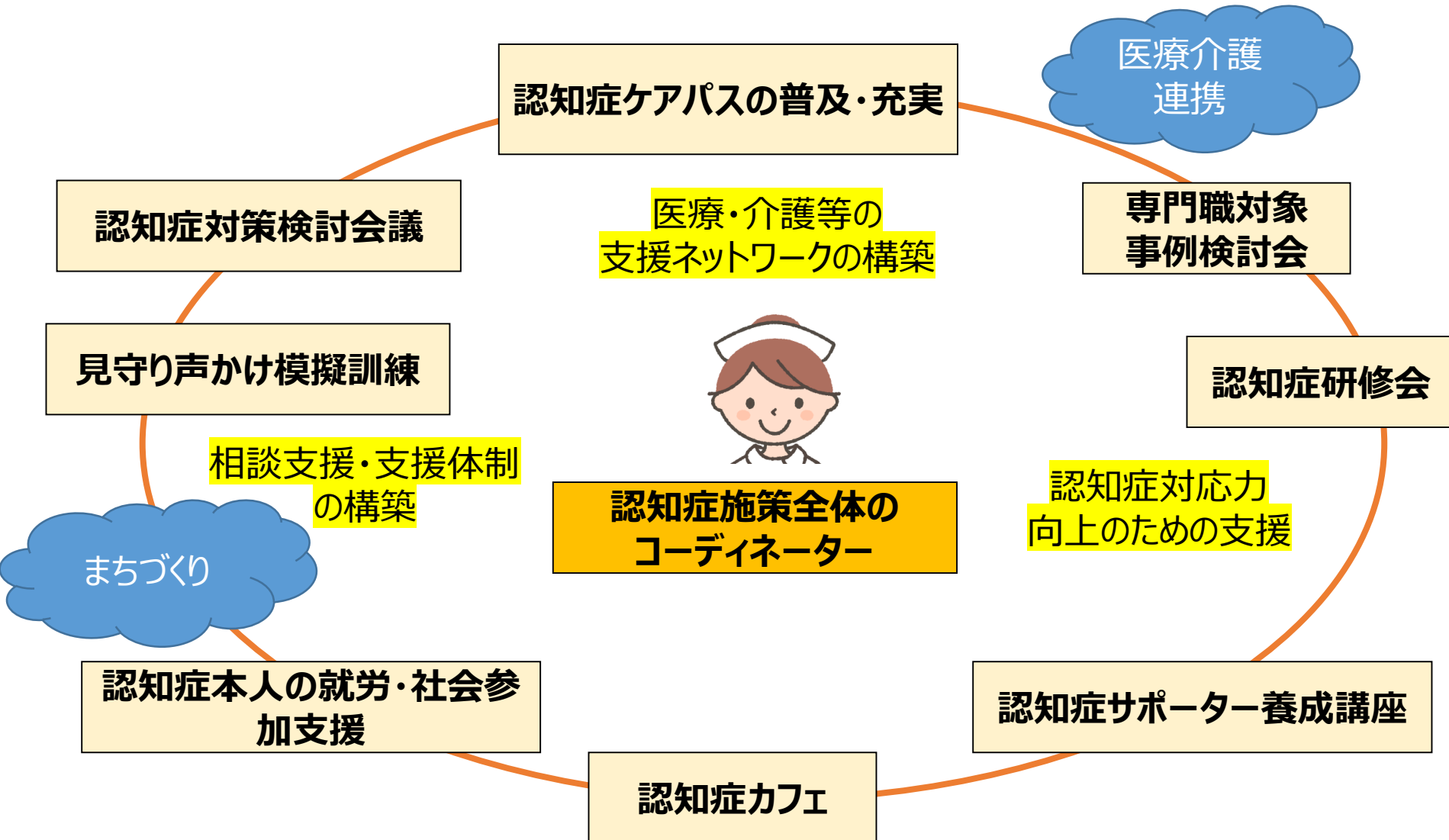
認知症カフェ◆
* 認知症のある方の
居場所づくり
家族のつどい

あんしん見守りネットワーク

(あんしん見守り協力員・協力団体、徘徊のおそれのある方の登録)
あんしん見守りメール登録 あんしんシールの交付

地域ケア会議

志摩市から求められている推進員の役割



背景：住民のニーズに見合った事業とは？



包括職員

認知症が進行してから相談につながる。現事業は住民のニーズに合っている？

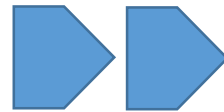
協働



一住民として市に貢献したい

病院勤務の認知症看護
認定看護師

市の中心部で事業を展開していても
参加者は限定される・・・
(志摩市の大きな課題：運転免許返納課題)



課題の抽出

- ① 認知症の周知啓発
- ② アウトリーチ
- ③ 職員のスキル向上
- ④ ボランティアの活用不足

職員でSWOT分析

より多くの住民の「声」を聴きに行こう！

志摩オレンジキャラバン：認サポ出前講座

～認知症になっても安心して暮らせる〇〇地区とは？～

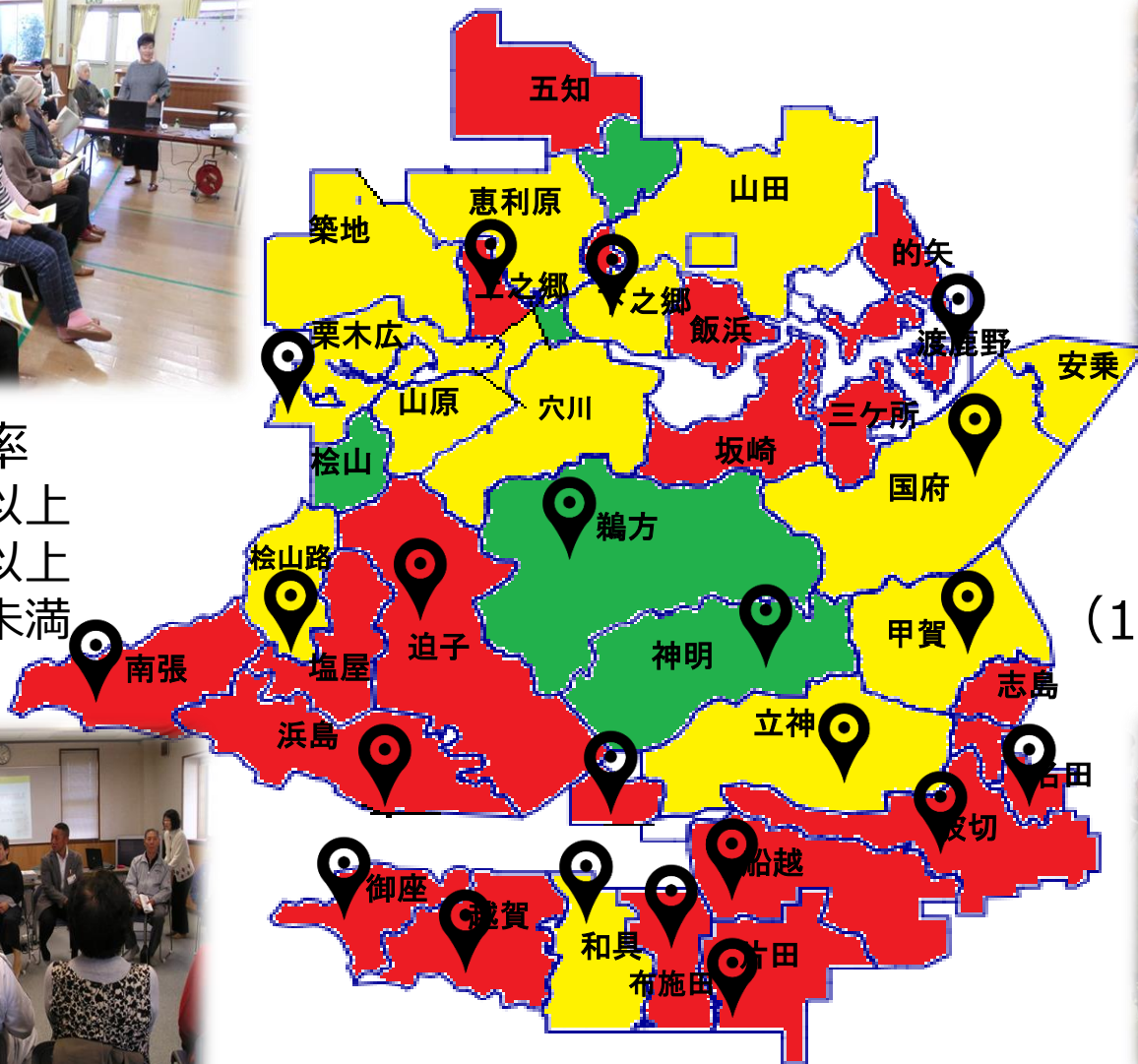


高齢化率

赤：40%以上

黄：30%以上

緑：30%未満



出前講座

22か所

(1回/1か月～2か月)



住民の声：「身近に集まれる場」が欲しい

強み

積極的に人の中に入る 認知症を隠すべきではない

なるべく家の外に出て朝の挨拶をする

顔なじみの関係だから声のかけあいをしている

病気という意識をもって皆が関わるべき

自主的にゴミ出しを手伝っている

家族と協力しながら近隣住民が支援する

おかずのおすそ分けをしている

介護の経験を生かして助けたい

孤立することが問題

男性が孤立化しているが外出する機会、方法がない

個人情報保護法の厚い壁がある

認知症の問題は若い世代も一緒に考えるべき

介護サービスはお金がかかる

空き家が増え近隣住民がいない

移住者なのでネットワークがない

近隣にスーパーがなくなったので買い物いけない

運転免許を返納したので外出できない

風習、慣習を守る人が高齢化している

若年層、実子が遠隔地にいて頼れない

外見だけでは認知症と気づかない

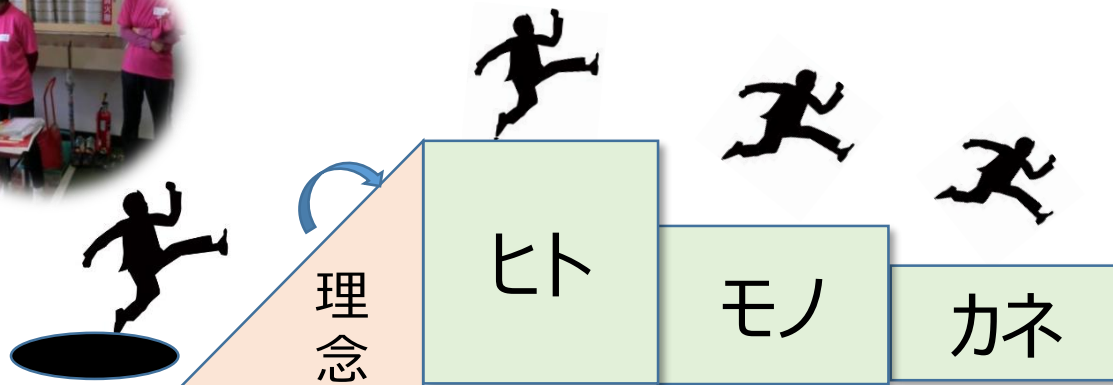
情報が欲しい

弱み

集う場づくり：志摩オレンジカフェ誕生へ

課題：資源の不足

- ① 所属機関や関係者との理念・方針を共有
- ② 市内1か所のコミュニティセンターを無料で提供
(ある地区の活動的な人に協力を依頼)
- ③ 本人、家族の相談に応じるため認知症看護認定看護師が常駐
- ④ 医師会長に協力依頼（後に歯科医師会長も協力）
- ⑤ 人的資源は専門職を含むボランティアが支援
- ⑥ 飲食物代金の確保のために参加費200円徴収



配慮：専門職含む住民同士のネットワーク構築



志摩高校漫画文芸研究部から
コーヒーメーカーの提供



オレンジ
カフェ

障がい者支援施設と連携し、
野菜やパンをカフェ
内部で販売



放課後児童クラブの子供たちを
招いてイベント企画
ボランティアの活躍



協力してくれる
専門職の仲間たち

効果：住民のもつ力が互いに引き出されていく

病問わず誰もが自分のままで過ごせる居場所

エンパワメント

生きがいを感じる場所

家族間の情報共有

BPSDの相談

高齢者の社会参加

ここは俺の言うことを
信じてくれる場所
だ・・・(本人)

ここに来たら夜は安
心して眠れるみたい
(主介護者)

ここにきている方を
普段から見守るよう
になった
(民生委員)

私だけが苦しんでい
るんじゃないんだな
(主介護者)

私でできることは
したい(住民)

家にいても・・・ね・・・
おしゃべり楽しい
(本人)

課題：志摩オレンジカフェの存在は？



開催回数が少ないからケアプランの反映が難しい

認知症と間違われるから参加したくない・・・

- ・ 開催場所、回数は志摩市の高齢化率に見合っている？
- ・ 本人たちが参加しやすい場となっている？
- ・ 運転免許返納課題に伴う移動手段の確保は？
- ・ カフェで応じた相談は専門機関と共有できている？
- ・ カフェで生じた効果をちゃんと伝えられている？
- ・ 人的資源の確保は？

車がないから行きたくても行けない

自分たちの地区でも開催してほしい

志摩オレンジカフェの拡充を目指した周知・啓発を・・・

展望：今ある資源の活用でカフェの効果を

本人や家族が安心して集うことができる場とは・・



認知症カフェは手段であり、目的ではない

身近にいつでも気軽に立ち寄れる「場＝人」

今後も：自分の足元を見ながら前進していく



認知症になっても安心して
暮らせる志摩市の実現のためには・・・



- その地域にはその地域で育まれた文化が存在するため、事業内容には住民の声を積極的に取り入れる
- 自分の住んでいる町にはどのような資源があるのかアンテナを張って周囲を見してみる
- 行動を起こすにはまずは声をあげることから
- 資源の不足は連携から（熱意と感謝とおたがいさまの精神で）



これからも住民の皆様とともに
歩んでいきます。
宜しくお願いいたします。